



地域支えあいニュース

第21号 平成30年8月

綾瀬市生活支援体制整備事業プロジェクトチーム
(事務局:綾瀬市社協 地域福祉班) 電話:0467-77-8166 ファックス 0467-79-1812
E-mail info@ayase-shakyo.or.jp

ささえあい井戸端会議意見交換会開催

市内7地区の皆さんが集まり、「ささえあい井戸端会議意見交換会」が7月31日(火)保健福祉プラザにて開催され、35名の地域の方々にご参加いただきました。

各地区の活動について発表がされた後、第1層生活支援コーディネーターから補足のコメントを加える形で進行。

各地区とも規模は違えど、ゲストを呼んだり、調査をしたりと地域における情報収集に努め、集めた情報をどのように活用していくかを模索しています。



一番最初に発足した寺尾南地区では、独自のワークショップにより、今まで得た情報の整理を行い、今後に向けた方向性を見つけていきました。上土棚地区は、子どもが担い手になる活動を模索し、今後アンケート調査を実施する予定です。吉岡地区は、ヒアリングやアンケートなど、細かなニーズを把握することに努め、定例会の際に出た学校からの要望により、児童の見守り活動を開始しました。

中村地区は、今までの開催方法や座長の選任を改め、より話し合いを深めていくための工夫を行い、新たな体制でスタートします。



落合地区は、地区内の団体の活動を見える化していくため、様々な団体の活動を収集し、新しいメンバーを加えて話し合いを重ねています。小園地区は、引きこもっている高齢者を外に出すための工夫について、公園において行われているラジオ体操グループの活動に目を向け、連携や情報発信について考えています。大上は、具体的な活動を行うためのコーディネーター配置が大きな課題となっています。



さわやか福祉財団の長瀬さんからは、「多くの地区で、既にたすけ合い活動創出に向けた様々な取り組みがなされ、綾瀬市における第2層協議体の活動が順調に行われていることを高く評価する。」というコメントもいただきました。

その後のグループワークでは、さまざまある課題から一つの課題に着目して、「協力者を探す」「できることを具体化する」「できることを探す」というワークを行い、各々の地域が、今後取り組むべき方向性について確認しました。



ささえあい井戸端会議は、市内14地区での発足を目指し、残り7地区においても、説明会、模擬井戸端会議などの取り組みが順調に進んでいて、今年度中に全地区の発足を目指しています。